

## 第1回策定委員会意見対応表（立地適正化計画）

策定委員会での主な意見については、以下のとおり対応する。

（第1回策定委員会）

NO.	意見	対応方針
1	高齢者福祉施設は歩いて利用する機会が少ないことから、距離での利用圏域の分析は適さないのではないか。また、公共施設も多くの種類があるため、種別・機能に応じて視点を変えて立地を分析すべきではないか。	個別の施設の複合化等については、「武蔵村山市公共施設等総合管理計画」と連携を図りながら進めていく。
2	バスはどうしても目的にはなれないため、バスに乗った先にある目的を増やすことが利用者の増加につながる。今後、連携・協力して施策を打ちながら、モノレールとバスが両立できるように検討してほしい。	今後、バス事業者と連携・協力を図りながら、モノレールとバスの交通ネットワーク等について施策の検討を進めていく。
3	交通広場に人が集まる機能があれば、バスの利用者も増え、人と人との新たな交流を生み出すことも期待されるため、立地適正化計画では、そのような機能についても検討してほしい。	交通広場については、バス事業者や関係機関と協議しながら整備内容について検討を行っていく。
4	夜間人口を増やすことは容易でないため、交流人口を増やす施策を考える必要がある。モノレール既存開通区間で、どのくらいの住宅供給や人口流入があったかなど、またインフラ整備の他に何か施策があったのか実績を調べてみると、新たなアイデアが出てくるかもしれない。	本市と状況が類似している上北台駅、桜街道駅周辺の用途地域、土地利用、駅周辺の人口について調査し、推移を整理した。（参考資料6）
5	モノレールの延伸によって人口を約1万人増やすとなると、何か目玉になるようなものがないと難しい。駅ごとにまちづくりをしていくことは現実的なのか。	多摩都市モノレール延伸まちづくり方針における市民ワークショップなどでいただいた意見等を踏まえ、駅ごとにまちづくりの将来像について、方針として取りまとめていく。